

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		6/12-19	6/19-26	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.099	0.110
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.110	0.035
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.040	0.020
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.120	0.170
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.058	0.040
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.110	0.034
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.086	0.031
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.075	0.055

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		6/12-19	6/19-26	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.066	0.028
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.022	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第112回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2018年6月12日~2019年6月26日)

今回観測されたセシウム137濃度は、極めて低い濃度で健康影響を心配することは全くありませんのでご安心ください。前回、放射性物質は、エネルギー的に安定になるために崩壊して放射線を発生すると説明しましたが、最初に存在した量が半分になるまでの時間を半減期といい、放射性物質ごとに異なります。半減期は、放射性物質が存在する環境の物理的、化学的、生物学的要因の違いに全く影響されません。放射性物質に熱を加えれば分解が早くなるとか、ある種の細菌で分解できるということはありません。今回の事故で放出された主要三核種である放射性ヨウ素、セシウム134及びセシウム137の半減期は、それぞれ8日、2年、30年ですので事故後8年を経て前2者はほとんど観測されなくなっているのです。